

# 歴史まち歩き

# 時を超える大須 信長のDNAが生きるサブカルチャーの聖地

9

## 南寺町 東の大須

コース【地下鉄上前津駅▶地下鉄上前津駅】

織田家や尾張徳川家の縁を感じさせる寺院と現代のさまざまな大衆文化が同居している魅惑的で不思議な寺町・東の大須。映画、レビュー、カフェ、洋服店、家電、パソコン、ゲーム、メイドカフェ…と常に時代の変化を写し出してきたまちでもあります。

### 1 春日神社

春日神社は上前津地域の氏神さまです。名古屋城築城前から当地に鎮座していました。16世紀の初め、ここを氏神さまとした前津小林城の牧長清が社殿や境内を整備しました。

### 2 織田信長の菩提寺「総見寺」

「大須」という地名になる以前、「門前町」「裏門前町」と呼ばれた時代がありましたが、この「門」とは総見寺の門のことを指しています。今は、通り名として親しまれています。もともと織田信長の次男・信雄が父の菩提を弔うために、伊勢国大島村の安國寺を清洲に移転し、信長の法号に因んで総見寺と名を改めました。

### 3 ヘラルド跡地

1960年代から1980年代、映画、ボーリングなどの大衆娯楽を支えた建物がありました。日本ヘラルド社の創業者・古川為三郎は、1921年に「太陽館」を大須に起こしてから立て続けに映画館を作りました。

### 4 名古屋総鎮守「若宮八幡社」

文武天皇朝である大宝年間(701~704年)に現在の名古屋城三の丸の地に創建と伝わり、延喜年間(901~923年)に再興されました。天文元年(1532年)の合戦で社殿を焼失しましたが、天文8年(1540年)織田信秀により再建されました。慶長15年(1610年)の名古屋城築城の際に現在地に遷座し、名古屋総鎮守とされ現在に至っています。

### 5 政秀寺

織田信長が、家臣で、信長の傅役(教育係)の平手政秀を弔うために小牧山(同県小牧市)の南にある小木村に創建したのが始まり。小牧・長久手の合戦で焼失しましたが、清洲に再興し、「清洲越」で、現在の地に移転しました。

### 10 柳生新陰流剣豪・柳生兵庫之介

牧長清死後、小林城は廃城となりました。城跡地辺りに住む武士は「小林武士」と呼ばれました。その中で、尾張藩の剣術師範・剣豪柳生兵庫助もこの地に住んでいました。

### 9 前津小林城、清浄寺関連

現在の東の大須の南東は前津と呼ばれていました。現在の様子からは想像が付きませんが、織田信長が活躍した頃は入江がありました。名古屋城下町ができるまでは、本当にもない野原でしたが、戦国時代、信長の義弟・牧長清が「前津小林城」を建て地域の治安にあたりました。

### 8 矢場町交差点

矢場町の名は1669年、地域内に現存する「三輪神社」に弓矢場が作られたことに由来します。明治になり、商業化の進む栄とともに発展し、1966年には区画整理により栄に、1969年には大須へ編入され、町名としては消えてしまいましたが、交差点名として今も残っています。

### 7 勝鬘寺(しょうまんじ)

名古屋栄、繁華街のど真ん中にありながらひっそりと佇んでいる「勝鬘寺」は、戦国時代に清洲に創立されました。岡崎の勝鬘寺の通所として尾張の末寺を掌っていました。現存する山門・本堂は江戸時代の初期のものです。

### 6 尾張徳川家付家老 成瀬正成の菩提寺「白林寺」

寺名の由来は藩主義直が名古屋城天守閣より南方を見渡すと真っ白に覆われた林があったという。よくよく見るとそれはシラサギが群れをなして休んでいる美しい光景であったそうです。そこが成瀬正成の菩提所として「白林寺」となりました。

### 11 清浄寺の矢場地蔵と芭蕉句碑

柳生兵庫助が亡くなった後、徳川の祈願所として2代藩主・光友が清浄寺を建てました。延命地蔵として有名な「矢場地蔵尊」があり、尾張六地蔵の一つに数えられています。また、芭蕉句碑があり、宵闇塚「盆過ぎて 宵闇くらし虫の声」があります。芭蕉が八十回忌のときに建てられた鏡塚には「人も見ぬ春や鏡乃うらの梅」が刻まれています。都心にあって、現在ひっそりと佇んでいます。

### 12 三輪神社

尾張藩の矢場があった場所。矢場町の由来にもなっています。徳川の御紋があり大切にされていたことがわかります。

### 13 新天地通

明治時代、この周辺は狐が化けて人を脅かすので、誰でも使える「お助け行燈」が道端にあるほど、人通り少ない寂しい土地でした。しかし、大正時代に信長と縁のある萬松寺(現:万松寺)が寺領を開放すると、次々にたくさんの映画館や美女のレビューを見ることができるようになり、新しいもので溢れていきました。いきなり別世界のように変わった町の風景に、人々はここを「新天地」と呼ぶようになりました。信長と縁のある万松寺の前に位置する新天地通は、新しいものが好きだった信長のよう、常に時代の最先端のサブカルチャーをうまく取り入れながら、時を超えてきました。

### 14 万松寺

織田家の菩提寺「万松寺」は現在の錦と丸の内にまたがる一大寺院として、広大な寺領がありました。「清洲越」で現在の地に移建されましたが、移転後も尾張徳川家の朱印寺として篤く信仰され、徳川義直室高原院の廟(亜相源敬公夫人霊廟)が置かれました。18歳の信長が「うつげ者」として世に知れた父信秀の葬儀で位牌に抹香を投げつけた事件も、家康(竹千代)が6歳で人質として今川義元に送られる途中、9歳まで過ごしたのも大須に移る前の「万松寺」が舞台です。信長が越前朝倉城攻めの帰り、鉄砲で狙い撃ちに合いましたが「万松寺」の和尚からもらった干餅のおかげで落命をまぬがれました。加藤清正が「身代り不動」と命名し、当時門前で売られていた餅も「身代り餅」と称され、災難・厄除けにいいと多くの人に愛されたそうです。そんな「万松寺」界隈は、明治の中頃までは、キツネが顔をだしていたそうです。

### 15 おからねこ

大直禰子命を祭神とする神社。背中に草木の生える「おからねこ」の物語の舞台。

